

令和6年度 2学期始業式 校長式辞

36日間の夏休みが終了し、いよいよ今日から78日間の2学期が始まります。この夏休み中も全国的に猛暑が続きました。夏休み前に皆さんに、熱中症や水の事故に気をつけ、自分の命は自分で守ってほしいという話をしました。この夏休み、皆さんの大切な命が失われることなく、今日も元気に登校してくれていることを大変嬉しく思います。

さて、1学期の終業式でも触れましたが、この夏休み中、パリでオリンピックが開催されました。様々な競技がテレビで中継され、活躍する選手の姿にテレビの前で熱い声援を送ったり、多くの感動をもらったりした人も多かったと思います。終業式で紹介した、スケートボードの女子ストリートに出場した、吉沢恋選手は見事に金メダルを獲得しました。また、同じ種目で銀メダルを獲得した赤間凜音選手や、水泳男子高飛び込みで銀メダルを獲得した玉井陸斗選手、卓球女子団体で銀メダルを獲得した張本美和選手も現役の高校生でした。

私もテレビやニュースでその姿を見ましたが、オリンピックということで国を背負うという重圧がありながらも、それらを感じさせない前向きなチャレンジを繰り返し、何より楽しみながら競技している姿には、若い世代のしなやかなでたくましいメンタルと今後の大いなる可能性を感じました。皆さんはオリンピックを見て、どんなことを感じたでしょうか。この後の時間に友達と話題にしてみましょう。

さて、今オリンピックについて話をしたので、今日はあるスポーツ漫画について話をします。皆さんは「スラムダンク」という漫画を知っていますか。「スラムダンク」は、バスケットボールを通して青春時代を過ごす高校生たちのドラマが描かれています。彼らが成長し、困難を乗り越え、夢である全国大会出場に向かって突き進む姿を中心に、バスケットボール以外の恋愛や友情、学校生活なども描かれている漫画です。バスケットボール部顧問の安西先生の「あきらめたらそこで試合終了ですよ」という名言も有名です。

このスラムダンクには、主人公の桜木花道や、彼のライバルである流川楓、キャプテンの赤城剛憲など魅力的なキャラクターが多数登場するのですが、作者の井上雄彦氏が「魅力的な登場人物を生み出す秘訣は？」というインタビューを受けた際、井上氏は「魅力的なキャラクターをつくるコツは、それぞれに必ず弱点をもたせること」と答えたそうです。また、「完全無欠のスーパーマンが登場してしまうとリアル感が失われる」とも述べています。そして、井上氏は「さまざまな個性のキャラクターが交わるからドラマに深みが出る」と言ったそうです。

この「さまざまな個性のキャラクターが交わるからドラマに深みが出る」という言葉は、まさに皆さんが今過ごしているリアルな学校生活にもそのままあてはまると私は思います。

考え方の違いや、様々な個性のぶつかり合いで、もめ事が起きたり、集団が1つにまとまらなかったりすることはよくあることですが、そういったことが起きても、それを乗り越えようと努力することでドラマチックな感動を味わえ

たり、自分自身を成長させたりすることができるのではないのでしょうか。

大切なことは、1人1人がスラムダンクの登場人物のように、自分の個性を生かした生活をする中で、自分以外の他者の個性を認め合い、お互いの短所や弱点を補い合おうとする姿勢です。そういう姿が見られる組織は1人1人の結びつきが強くなり、本当の意味で生きた組織体になります。

2学期は南風祭合唱の部を始めとする様々な学校行事も用意されています。そこに向かう過程を通して、皆さんの学級が「スラムダンク」の湘北高校バスケットボール部のようなスーパーチームになっていくことを期待します。そしてそのことが学校・学級の、そして1人1人のウェルビーイングに繋がっていくことも願っています。充実した2学期にしていきましょう。